

平成25年度国立天文台研究集会開催報告書

平成25年12月9日

国立天文台長 殿

代表者	氏名	(ふりがな) はまな たかし		
		浜名崇 		
	所属・職	国立天文台 理論研究部 助教		
	電話	(内) 3743	E-mail	hamana.tk@nao.ac.jp
研究集会名	第2回観測的宇宙論ワークショップ			
開催期間	2013年12月4日 ~ 2013年12月6日			
開催場所	国立天文台 すばる棟 大セミナー室			
参加人数	65名			
研究集会の概要	<p>目的: 観測的宇宙論についての当面の課題について、参加者各自がそれぞれの研究成果をふまえ、意見を交流しあい、新たな共同研究を含む将来展望を獲得する。</p> <p>背景: 近年、国内において観測的宇宙論に関する課題を主目的とした大型観測プロジェクトが計画・実施されてきている（例えば、すばるFMOSによるBAO探査FastSound（実施中）、すばるHyper SuprimeCamによるweak lensingを主目的としたサーベイ計画（2014年開始予定）、宇宙背景放射の偏光観測計画LiteBIRD計画（計画中）、すばるPSFによるBAO探査計画（計画中））。これらのプロジェクト推進のための研究会は頻繁に開催されている。これは宇宙論を実証科学として支える観測研究を前進させるために不可欠ではあるが、特定の観測計画を推進することが目的のため、その目的に特化した議論となることは否めないと思われる。</p> <p>一方、観測的宇宙論研究を将来に渡り発展させるためには、新たなアイデアに基づく研究や観測計画立案といった、いわば基盤・萌芽的研究の促進も不可欠である。このためには、特定のプロジェクトに縛られることなく純粋に研究者の興味・関心に基づくサイエンスを語り、意見を交換する機会を年に一度程度の頻度で持つ事が有用だと思われる。これがまさに本研究会が目指す事である。</p> <p>討議内容: 観測的宇宙論に関わる課題について、発表者が主体となって現在進めている、またはこれから進めようとしている研究の講演を中心にして広範な議論を交わす。参加者間の深い相互理解が得られることを目指し、単なる研究成果発表ではなく、今、我々が取り組むべき課題はなにか、ブレイクスルーはどこにあるのか、を議論する。そこから萌芽的研究が生まれる事を期待する。</p>			

<p>研究集会の成果</p>	<p>本研究会が目指す効果：本研究会では、実際に自分の手を動かして研究をすすめている若手を中心に、いま直面する課題に対しそれぞれが行っている現在進行中または近未来の研究について、理論・観測の枠を超えて交流したいと考えている。大型プロジェクトについての議論では、「プロジェクトのため」を意識する。本研究会では、それとは相補的に、純粋に研究者の興味・関心に基づくサイエンスを語ることを目指す。これは新たな研究や共同研究の組織化につながると期待される。</p> <p>プロジェクトの垣根を越えてより幅広い視点から議論を行うことで、国立天文台が関わるさまざまな観測プロジェクトの意義を深めるだけでなく、観測プロジェクトと理論研究間の連携を強め、研究成果の相乗効果を生み出すことにも役立つ。結果的に、国立天文台のプレゼンスを高めることにつながると期待される。</p> <p>成果：講演数36（うち招待講演8）、登録参加者65名と多くの研究者が参加した。招待講演は45分、一般講演も25分と長めの講演時間をとったことにより、議論に多くの時間を割く事が出来、単なる研究発表にとどまらず、次に取り組むべき課題やその方針まで議論され、参加者から有意義な研究会であったとの評価を得た。実際この研究会から新たな研究の発想を得たという参加者もいた。</p> <p>参加者からは、本研究会の開催主旨である「特定のプロジェクトに縛られることなく純粋に研究者の興味・関心に基づくサイエンスを語り、意見を交換する機会を年に一度程度の頻度で持つ」に賛同する声が多く寄せられた。また、こういった場を継続的に持つ事が、若手研究者や学生の育成にとっても非常に有意義であるという意見も寄せられた。</p> <p>また、国立天文台で推進しているHyper SuprimeCamとTMTについての招待講演を行ったことにより大型観測プロジェクトと基盤研究の交流が計られ、大型観測プロジェクトへのフィードバックが期待される。</p>
<p>その他参考となる事項 (希望事項も含む)</p>	<p>参考資料としてワークショッププログラムと参加者リストを添付する。</p>